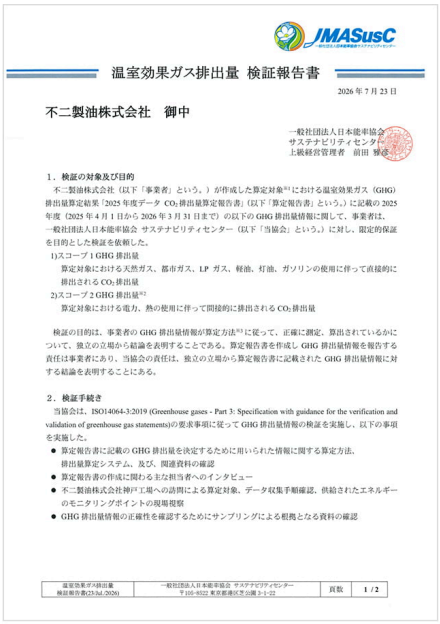
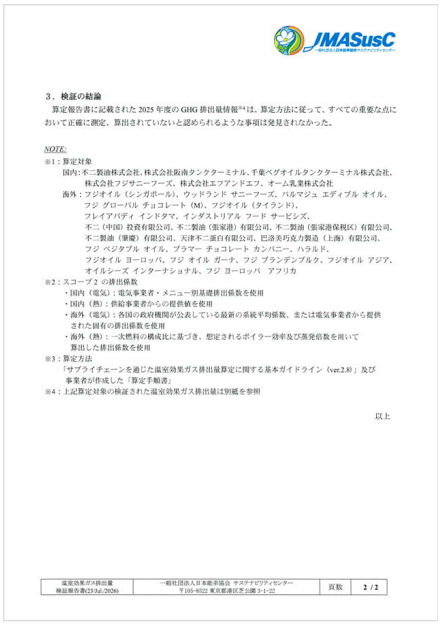
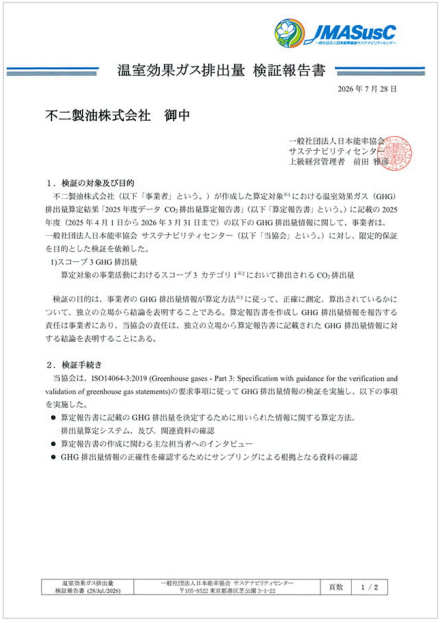
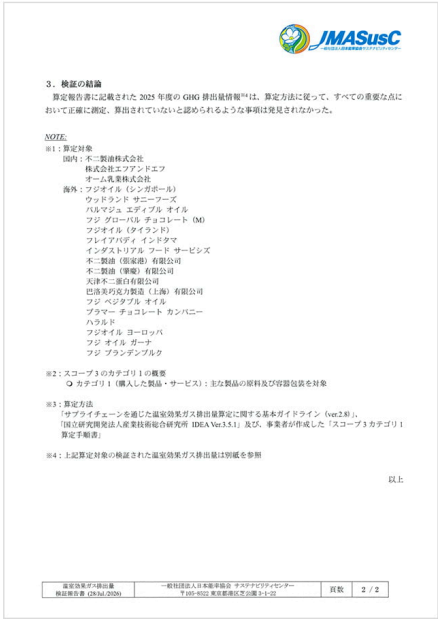
編集方針

GRI:2-1,2-2,2-3,2-5,2-6,102-4

不二製油グループは、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして、「統合報告書」と「サステナビリティレポート」を年次で発行しています。
「統合報告書」は、当社グループの事業全体像および中長期的な戦略を記載し、その内容についてステークホルダーの皆様との対話を重ねることで、企業価値の向上を図ることを目的としています。報告対象範囲は主に連結子会社・持分法適用会社です。
一方「サステナビリティレポート」は、当社グループのサステナビリティ経営およびESGマテリアリティについて「方針」「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」「具体的な取り組み」を整理し、広範なステークホルダーの皆様へ網羅的かつ体系的に報告しています。また、外部評価ならびにESGに関する詳細データを掲載し、「統合報告書」のサステナビリティ情報を補完しています。

報告対象範囲	不二製油グループ 不二製油(株)および国内外に拠点を置く連結および関係会社の活動を含みます。詳しくは下記をご確認ください。 グループ会社一覧 https://www.fujioil.co.jp/pdf/sustainability/download/esg2026.pdf#page=13(1.17MB)
報告対象期間	2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)の実績を報告しています。 なおガバナンスについては2026年6月時点の情報に基づき掲載しています。 一部上記期間以外の活動も含みます。
発行時期	2026年9月11日(日本語版) 2026年10月30日(英語、中国語版)
準拠または参考にした開示基準・開示フレームワーク	**GRIスタンダード** 本報告書は、GRIスタンダードに準拠しています。 **IFRS開示基準S1号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的要求事項」** 国際会計基準(IFRS)財団傘下の国際サステナビリティ基準審議会(ISSB)が策定したサステナビリティ開示基準S1号を参考に、以下のように構成を見直しました。 • ESGマテリアリティの課題領域:「方針」「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」の観点から全体像を整理 • 各サステナビリティ課題領域の重点項目:「課題認識」「リスク管理の取り組み」「指標と目標」「具体的な取り組み」を記載し、課題対応の考え方から実行状況まで体系的に開示 **気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)および自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)提言** 気候変動および自然資本・生物多様性に関する開示については、TCFDおよびTNFDの開示フレームワークを踏まえ、開示しています。

GRIに基づく開示情報の決定方法	「サステナビリティレポート2026」においては、以下の考え方により、持続可能な社会の実現のために当社グループの貢献が期待されるテーマについてご紹介しています。 ① 当社グループのESGマテリアリティ※は、マテリアリティマップ上で当社グループが社会・環境に与える影響度が「極めて高い」「高い」または社会・環境課題が当社グループの財務に与える影響度が「極めて高い」「高い」と評価されたテーマです。これらについては、グループレベルで対応し、情報開示を行っています。 ② ①以外のテーマについても、関連する各社・各部門で対応し、ステークホルダーの意思決定に影響し得る情報を開示しています。 ※ 不二製油グループのサステナビリティ経営＞戦略 https://www.fujioil.co.jp/sustainability/sustainability_management/?tab=2
第三者保証	情報の正確性を担保する目的で、スコープ1・2のCO_2排出量および、スコープ3（カテゴリ1）に関するCO_2排出量において第三者保証を得ています。  温室効果ガス排出量 検証報告書 2026 年 7 月 23 日 不二製油株式会社　御中 一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター 上級経営管理者　前田 修 1．検証の対象及び目的 不二製油株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象[1]における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2025 年度データ CO_2 排出量算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）の以下の GHG 排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。 1)スコープ 1 GHG 排出量 算定対象における天然ガス、都市ガス、LP ガス、軽油、灯油、ガソリンの使用に伴って直接的に排出される CO_2 排出量 2)スコープ 2 GHG 排出量[2] 算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出される CO_2 排出量 検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法[3]に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。 2．検証手続き 当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って GHG 排出量情報の検証を実施し、以下の事項を実施した。 ● 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認 ● 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー ● 不二製油株式会社神戸工場への訪問による算定対象、データ収集手順確認、供給されたエネルギーのモニタリングポイントの現場視察 ● GHG 排出量情報の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認 温室効果ガス排出量 検証報告書(25/3d./2026) | 一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター 〒105-0022 東京都港区芝公園 3-1-22 | 頁数 1 / 2  3．検証の結論 算定報告書に記載された 2025 年度の GHG 排出量情報[4]は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。 NOTE: ※1：算定対象 国内：不二製油株式会社、株式会社阪南タンクターミナル、千葉ベグオイルタンクターミナル株式会社、株式会社フジサニーフーズ、株式会社エフアンドエフ、オーム乳業株式会社 海外：フジオイル（シンガポール）、ウッドランド サニーフーズ、バルマジュ エディブル オイル、フジ グローバル チョコレート（M）、フジオイル（タイランド）、フレイアバディ インドタマ、インダストリアル フード サービシズ、不二（中国）投資有限公司、不二製油（張家港）有限公司、不二製油（張家港保税区）有限公司、不二製油（肇慶）有限公司、天津不二蛋白有限公司、巴洛美巧克力製造（上海）有限公司、フジ ベジタブル オイル、ブラマー チョコレート カンパニー、ハラルド、フジオイル ヨーロッパ、フジ オイル ガーナ、フジ ブランデンブルク、フジオイル アジア、オイルシーズ インターナショナル、フジ ヨーロッパ アフリカ ※2：スコープ 2 の排出係数 ・国内（電気）：電気事業者・メニュー別基礎排出係数を使用 ・国内（熱）：供給事業者からの提供値を使用 ・海外（電気）：各国の政府機関が公表している最新の系統平均係数、または電気事業者から提供された固有の排出係数を使用 ・海外（熱）：一次燃料の構成比に基づき、想定されるボイラー効率及び蒸発係数を用いて算出した排出係数を使用 ※3：算定方法 「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.8）」及び事業者が作成した「算定手順書」 ※4：上記算定対象の検証された温室効果ガス排出量は別紙を参照 以上 温室効果ガス排出量 検証報告書(25/3d./2026) | 一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター 〒105-0022 東京都港区芝公園 3-1-22 | 頁数 2 / 2  温室効果ガス排出量 検証報告書 2026 年 7 月 28 日 不二製油株式会社　御中 一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター 上級経営管理者　前田 修 1．検証の対象及び目的 不二製油株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象[1]における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2025 年度データ CO_2 排出量算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）の以下の GHG 排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。 1)スコープ 3 GHG 排出量 算定対象の事業活動におけるスコープ 3 カテゴリ 1[2]において排出される CO_2 排出量 検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法[3]に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。 2．検証手続き 当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って GHG 排出量情報の検証を実施し、以下の事項を実施した。 ● 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認 ● 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー ● GHG 排出量情報の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認 温室効果ガス排出量 検証報告書 (26/3d./2026) | 一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター 〒105-0022 東京都港区芝公園 3-1-22 | 頁数 1 / 2  3．検証の結論 算定報告書に記載された 2025 年度の GHG 排出量情報[4]は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。 NOTE: ※1：算定対象 国内：不二製油株式会社 株式会社エフアンドエフ オーム乳業株式会社 海外：フジオイル（シンガポール） ウッドランド サニーフーズ バルマジュ エディブル オイル フジ グローバル チョコレート（M） フジオイル（タイランド） フレイアバディ インドタマ インダストリアル フード サービシズ 不二製油（張家港）有限公司 不二製油（肇慶）有限公司 天津不二蛋白有限公司 巴洛美巧克力製造（上海）有限公司 フジ ベジタブル オイル ブラマー チョコレート カンパニー ハラルド フジオイル ヨーロッパ フジ オイル ガーナ フジ ブランデンブルク ※2：スコープ 3 のカテゴリ 1 の概要 ❍ カテゴリ 1（購入した製品・サービス）：主な製品の原料及び容器包装を対象 ※3：算定方法 「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.8）」、「国立研究開発法人産業技術総合研究所 IDEA Ver.3.3.1」及び、事業者が作成した「スコープ 3 カテゴリ 1 算定手順書」 ※4：上記算定対象の検証された温室効果ガス排出量は別紙を参照 以上 温室効果ガス排出量 検証報告書 (26/3d./2026) | 一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター 〒105-0022 東京都港区芝公園 3-1-22 | 頁数 2 / 2 画像からPDFファイルへリンクします（3.16MB）